

様式1(主な取組)

活動指標名					R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
					確認調査の実施	—	100.0%	63,843	順調	普天間飛行場に所在する伊佐上原遺跡群A地点及び伊佐上原南遺跡北西部の確認調査を実施した。また、これまでに実施した普天間飛行場内の試掘調査で得られた資料について整理作業を行い、総括報告書を刊行した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										在沖米軍をはじめ、関係機関との綿密な事前調整を行い、令和3年度も現地での確認調査を継続して実施することができた。また、これまでに実施した普天間飛行場内の試掘調査成果をまとめた総括報告書の刊行により、普天間飛行場に所在する文化財について、各種開発事業者や県民へ周知を図るとともに、協議・調整及び遺跡保存の資料に資することができた。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・基地内調査とその他開発に伴う調査の双方に対応し得る埋蔵文化財専門職員数が確保できるよう、関係機関への丁寧な説明と理解向上を図り、発掘調査体制の強化に努める。 ・国や米軍とは、可能な限り早期に基地内調査についての情報収集や調整、各種申請の開始に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査体制の強化を図るため、令和4年度に埋蔵文化財専門職員3名を新規で採用することができた。 ・また、文化庁や沖縄防衛局に対し、今後の米軍施設関連調査に対応しうる体制整備について継続して調整を進めている。 ・沖縄防衛局や在沖米軍と綿密な調整を行い、令和4年度の基地内立入申請書を作成し、承諾を得た。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 返還跡地利用計画の円滑化には埋蔵文化財の把握が不可避となる。しかしながら米軍施設内は制約が多く、十分な調査が進んでいない。
- ・ 跡地利用計画の策定に先立ち埋蔵文化財の調査が必要だが、県・基地所在市町村ともに諸開発に伴う調査も多いため、基地内調査に対応可能な埋蔵文化財専門職員数が不足している。

○外部環境の変化

- ・ コロナ禍により、米軍担当者との連絡体制の在り方が変更となり、調整に遅れが生じる場合がある。
- ・ 毎年のように米軍施設内での調査条件が変更となるため、その調整に時間を要することで、調査期間の短縮などの影響が懸念される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 基地内調査とその他開発に伴う調査の双方に対応し得る埋蔵文化財専門職員数を確保するなど、体制強化が必要である。
- ・ 調査に影響を及ぼさないよう、国や米軍との調整に必要な期間を確保することが求められる。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 基地内調査とその他開発に伴う調査の双方に対応し得る埋蔵文化財専門職員数を確保するために、返還跡地利用計画に関する情報収集を行いつつ、関係機関への丁寧な説明を継続して行う。
- ・ 基地内調査に関して、引き続き可能な限り早期に国や米軍との情報収集や調整、各種申請を開始するよう努める。